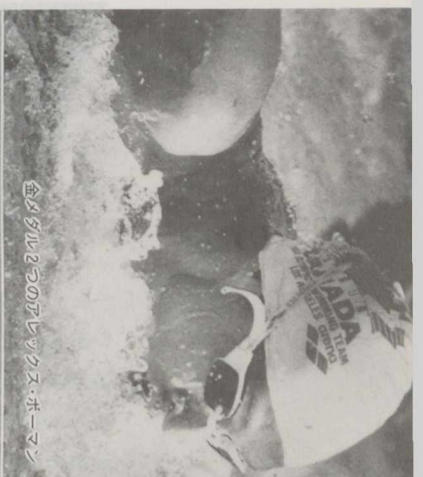


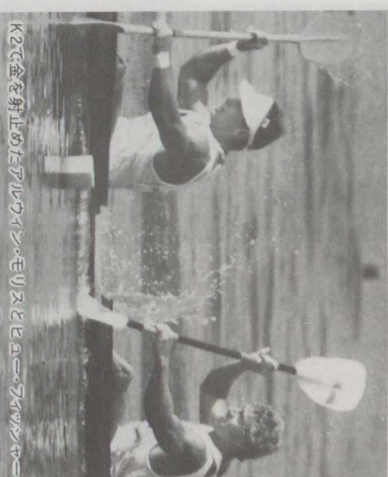
男子200米平泳ぎに優勝したビクター・デービス

女子200米平泳ぎで金のアン・オリヴァー・ライイト

カヌーの優勝者ラリー・カーン



金メダル2つのアレイクサン・ボーン



K2で金を射止めたアルカイイン・モリス及びヒュー・ワイルドマン



エイトの金メダル・チーム

新体操の金メダリスト ローリ・ワアン

# オリピックでメダル4個 大活躍のカナダ・チーム

ロサンゼルス・オリンピックで、カナダ選手が「歴史的な」活躍を見せた。

金メダル10個、銀18個、銅16個、合計44個を獲得して、参加百四十か国中、第四位。メダル数は、一九三三年のカナダ最高記録十五個を一挙に跳び越え、一九七六年まで得たメダルの総計よりも多く、カナダ国民は自国選手の「意外」な強さに目を見張る毎日だった。

大会第一日、まず射撃でオタワのリンダ・ソムが、アメリカのルビー・フォックスを破って最初の金に輝いた。女子射撃がオリンピック種目になったのは今回が初めてだから、リンダ・ソムは世界最初の女性射撃金メダリストになる。

これを皮切りに、カナダのメダル数はぐんぐん増え、最終日の前日には一挙に十一個を獲得した。カナダ人選手が入賞した。四百のタイム四分十七秒四一は世界記録をいくつか持つアレックス・ホーアマンが、予想通り四百米メドレーと二百米メドレーでそれぞれ金メダルをとった。四百のタイム四分十七秒四一は世界

陸上競技では、五個のメダルをとった。まず、ジョンソンが百米走で銅をとった。続いて女子三千米走でリン・ウイリアムスが銅、バルバドス島出身のブリタニア・ペインが加わった。レーン・チームは、四百米を四十二秒七七のカナダ新記録で走って、銀。

そのほか、今年から正式種目に入った新体操では、日本、ルーマニア、西ドイツなどの甲乙つけがたい華麗な演技のなかで、カナダのローリ・ワアンが見事金に輝いた。

今回のロサンゼルス五輪では、日本とカナダが接戦を演じた種目もいくつかあった。男子バレーボールもそのひとつ。準決勝進出を決める試合で、カナダは日本チームを破った。

そのカナダ・チームをこまごま育てあげたのが、日本人の前田健監督である。一九七八年、カナダに招かれ、当時ワールドカップの最下位にあったカナダ・チームを六年間手塩にかけて育てた。その結果カナダは、今年四月の日、米、加、メキシコの四か国対抗で優勝、七月のNHK杯でも日本を破った。ロス五輪でカナダは結局四位にとどまったが、その強さはかつてのカナダ・チームを知る人々を驚かせた。

カナダの栄達は、二十年間の挑戦で初めて銅を手にした。ウイニペグのリーグ・パージュヤリが九十五キロ以上級で三位で表彰台に立った。レスリングはヘビィ級でボブ・モールが銀、フリースタイルと八十二キロ級でクリス・リングが銅を二個とった。ホクシングではカナダ・アマチュア・ホクシング界の王といわれるウイリントン・デヴィットが、ヘビィ級で銀をとった。